

医師は語る

医療法人社団 健翔会
堀口医院医師 堀口裕

放射線障害を断ち切る

私は北海道の山奥の農家の家に生まれました。何故か家の屋根は藁葺（わらぶき）で、家の壁は土壁、明かりといえば裸電球、おまけにお風呂は家の外にあつて、何と五右衛門風呂でした。でも動物と昆虫にあふれ、夏には自家製の西瓜（すいか）と瓜（うり）、イチゴを畑でも

ぎとって食べるときの美味しさ、貧乏でしたが本当に自然を満喫していました。動物も植物もどうしてそんなにイキイキしていたのでしょうか。そりやお日さんも照れば雨も降っていました。そしてサラサラと風も流れていました。でも今になって考えてみますと、なんとすべても大自然だ！と実感していたのは、美味しい空気だったように思うのです。空気は目に見えませんが、それは肺一杯に吸い込みたくなる空気なのです。そんな美味しい空気が何が含まれているのか、当時は考えもしませんでした。今はつきり言えることはネガティブイオン（マイナスイオン）が豊富だったのです。ネガティブイオンは

電子をもった空気の粒のことで、動物や植物の健全な成長に欠かせない要素になっています。でも車の排気ガスや工場からの煤煙がネガティブイオンの電子を勝手に食べてしまいますので、大気汚染のひどい地域では、ネガティブイオンがとてもなくなくなっています。幸いにして当時私が住んでいたところ

は、工場もなく、車もほとんど通らず、私なんか小学校のときの帰り道、遊び疲れて道路の真ん中に寝ていた記憶があります。そんなところに住んでいましたので、空気中のネガティブイオンの多さは抜群だったと思います。

ネガティブイオンについてはこれまで沢山の研究報告が寄せられているのですが、一番の働きは人の体の細胞がサビていくのを防ぐことです。私たちの体はどこもこれも全て細胞でできていて、脳は脳神経細胞、肝臓は肝細胞、皮膚は皮膚の細胞の集まりでできています。その細胞が栄養素をもとに元氣（エネルギー）を作ろうとすると、副産物として細胞の中に必ず老廃物ができます。これは細胞をサビさせる働きがあり、学者さんは活性酸素とかフリーラジカルと呼んでいます。この老廃物を残しておく、やがて細胞が壊れて死滅したり、ガンや糖尿病の細胞に変化していきま

す。ですから私たちは毎日細胞の老廃物の掃除をしなければなりません。その細胞の老廃物の掃除に使われるのが、空気中のネガティブイオンのもつ電子なのです。

私たちは生活の豊かさや便利さを求めるあまり、空気を汚しすぎてはいけません。でも実際のところ大分汚れてしまいました。

さて、昨年のもとても大きな出来事は、何といっても東日本を襲った大地震、それに続く大津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の放射能汚染事故です。私は二度ほど福島県にお邪魔しましたが、地元の方からとても生々しいお話を伺いました。一番ショックだったことは、多くの子供さんが鼻血や下痢をしていたことです。また大人の方でも体の倦怠感を訴えられていることです。

放射線は決して目に見えませんが、でも沢山の放射線を浴びると、体に悪いことだけは確かです。今は何も症状がなくても、10年後、15年後、そして20年後にガンを含めて沢山の病気が起こる可能性があります。それは一九八六年に現在のウクライナで起こったチェルノブイリ原発事故で、その後に発症している病気の集計からも放射線被曝による人的被害の大きさがうかがわれます。

ではこの放射線被曝に対処して、私たちはどのように対処し

なければならぬのでしょうか。まず当たり前のことをきちつと知ることです。放射線被曝とはもちろん人に当たることです。では人は何でできていますか？といえ、全て細胞です。ですから放射線が細胞にあたることを被曝と考えて下さい。次に放射線が細胞に何を起こすのかが重要です。

実は人の細胞の中は、その容積の70%から90%が水で占められています。放射線が水に当たると、爆発的に、かつ大量に活性酸素（ヒドロキシラジカル）が発生するのです。活性酸素！それは先ほど出てきましたね。普通に細胞がエネルギーを作る営みの中で出てくるのも活性酸素でした。ただ放射線障害の場合は、沢山の活性酸素が発生します。病気の細胞が生きやすいのも容易に想像がつくと思います。そうしましたらもうお分かりですね。細胞の放射線障害を断ち切るには、ネガティブイオンのもつ電子を大量に与えれば良いということになります。電子が活性酸素を消すのです。

しかし残念なことに、自然界の空気中のネガティブイオンを特定の場所に集めたり、人為的に自然界を増やすことはできないのです。そこで別なものから電子を取り入れ、細胞に与えなければなりません。それは食事です。食べ物に含まれている抗

酸化物質といわれる電子をもったビタミン、ミネラル、アミノ酸類、酵素、補酵素などです。具体的な例として、ほうれん草に含まれるαリポ酸、柑橘類のビタミンC、アボガドのビタミンE、ニンニクのグルタチオン、牡蠣の亜鉛などがあります。しかし放射線障害の程度が重い場合には、こうした抗酸化物質を沢山摂っていても間に合わないのです。

大量の電子補充を治療の一環として実行しなければなりません。これに適したのが還元電子治療、それ以外にはないと思います。決して放射線被曝を想定して開発したわけではありませんが、いつも細胞で元氣を作るときに必ず出てくる活性酸素、それを消すという点では同じことなのです。

大自然の中で美味しいと感じる空気の中身は明らかにネガティブイオンですが、実はこれが作られるとき宇宙から降ってくる放射線や地殻鉱石からでる放射線がもたっているのです。放射線そのものは細胞をサビさせるが、放射線がもた作られたネガティブイオンは細胞のサビを消すという自然界の法則は、放射線被曝のときの緊急の対応策として、私たちはいつい何をするればいいのかを教えてください。